

研究課題：ICDAS II を利用した定期検診（健診）システムの検討

研究者名：大山篤¹⁾、豊島義博²⁾、吉田直美³⁾

所 属：¹⁾ 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科総合診療部

²⁾ 第一生命保健相互会社 総務部 日比谷診療所

³⁾ 東京医科歯科大学 歯学部口腔保健学科 生涯口腔保健衛生学講座

【目的】ICDAS II (International Caries Detection and Assessment System) は齲蝕の検出と評価のための国際基準であり、齲蝕のプロセスが把握できる新しい齲蝕の診断基準として期待されている。本研究の目的は、大学の口腔ケア外来、企業の診療所、一般の診療所における定期検診（健診）のシステムに ICDAS II を組み込んだ場合の利点・改善点を抽出し、ICDAS II を利用した定期検診（健診）システムのモデルケースを提示することである。ICDAS II の利点・改善点を明らかにした上で ICDAS II を初期齲蝕のマネジメントツールとして定期検診（健診）システムに組み込めば、初期齲蝕に対して過剰な介入をせずに経年的な管理を行えることが予測され、国民の口腔保健の向上に寄与することが期待される。また、ICDAS II の実用性を検証することで、本邦における齲蝕罹患の実態にあわせた臨床研究、疫学研究へと ICDAS II の応用可能性が広がることも考えられる。さらに、ICDAS II を活用することで国際比較ができるデータが得られることも期待できる。

【研究計画・方法】大学歯学部附属病院の口腔ケア外来、企業の診療所、一般の診療所において、ICDAS II コードの共有化をはかるため、ICDAS II の各コードに該当する口腔内写真を収集してキャリブレーション用資料を作成し、定期検診（健診）を担当している歯科医師または歯科衛生士間で ICDAS II コードのキャリブレーションを行った。つぎに大学歯学部附属病院の口腔ケア外来、企業の診療所、一般の診療所には、それぞれに異なる診療スタイルがあるため、ICDAS II を効果的に利用できると考えられる定期検診（健診）システムのモデルを作成した。さらに作成したモデルにしたがって、実際の患者に対して ICDAS II を利用した定期検診（健診）システムを適用し、ICDAS II を利用した定期検診（健診）システムの利点・改善点を抽出・検討した。なお、本研究の実施にあたり、東京医科歯科大学 歯学部倫理審査委員会の承認を得た（東京医科歯科大学歯学部 倫理審査委員会 第 371 号）。

【結果】大学歯学部附属病院の口腔ケア外来、企業の診療所、一般の診療所において、ICDAS II コードの共有化をはかるため、ICDAS II のコード表である「むし歯の診査表」を利用してキャリブレーションを行った。ICDAS II コードの信頼性については、臼歯部の咬合面小窩裂溝が茶褐色を呈していた場合、「むし歯の診査表」を用いてもコード 0 とコード 1 の区別が難しいことがわかった。また、大学歯学部附属病院の口腔ケア外来、企業の診療所、一般の診療所の実態にあわせた ICDAS II を利用した定期検診（健診）システムを導入した。

【考察】ICDAS II を大学歯学部附属病院の口腔ケア外来、企業の診療所、一般の診療所という異なる環境において定期検診（健診）システムに組み込んだ結果、1) 海外の齲蝕予防ガイドラインの活用、2) 患者が継続的かつ気軽に利用できる定期検診（健診）システムの構築、3) 院内における歯科医師と歯科衛生士の強い連携、が ICDAS II を利用した定期検診（健診）システムには必須であると考えられた。また、初発の初期齲蝕の管理は小児を対象として行うのが最も効率的であり、二次齲蝕の管理方法としては企業の診療所でも利用されていたミシガン大学のアルゴリズムが活用できると考えられた。